

健康メモ

石綿(アスベスト)と健康被害

広島市医師会理事
広島鉄道病院放射線科部長 市木 敏夫

石綿(アスベ

スト)は天然の極めて細い鉱物繊維で、丈夫で変化しにくい特



性を持つていることから、建材、摩擦材、断熱材といった多くの工業製品に使用されてきました。しかし、石綿は肺がんや中皮腫を発症する発がん性が問題となり、現在では、製造・使用等が禁止されています。

石綿は、肉眼で見ることのできない極めて細い繊維で、飛散すると空の中に浮遊し、肺内に吸入されて容易

に肺胞に沈着します。長期間肺内に滞留した石綿が原因となって、肺の線維化や肺がん、悪性中皮腫などの病気を惹き起こすとされています。

石綿による健康被害は潜伏期間の約四〇年を越えたとされる近年になって急激に増加しており、〇五年には中皮腫で死亡された方は九一人で一〇年前の約二倍となっています。

石綿との関連が明らかな疾患には石綿肺、肺がん、中皮腫、良性石綿胸水、びまん性胸膜肥厚の五つがありますが、そのうち悪性の肺がんと中皮腫について解説します。

肺がんは気管支あるいは肺胞を覆う上皮に発生する悪性腫瘍で、中皮腫と異なり、喫煙をはじめ、石綿以外の原因でも発生します。なかでも喫煙は肺がん発生の最大の要因で、両方の曝露を受けると、肺がんの危険性は相乗的に高くなることが知られており、肺がん発生を減らすため

には、禁煙することが大切です。

中皮腫は肺を取り囲む胸膜、肝臓や胃などを囲む腹膜などにできる悪性腫瘍で、ほとんどは石綿曝露が関与しています。発症までの潜伏期間は四〇年前後と長く、職業的曝露のみならず、家庭内や近隣曝露による発症も報告されています。症状は息切れ、胸痛が多く見られますが、症状がなく胸部レントゲン検査で胸水の貯留で見つかる場合もあります。

〇6年3月に発足した石綿健康被害救済制度の対象は中皮腫と肺がんです。石綿曝露の経歴があり、健康被害が心配な方は呼吸器内科のある最寄りの病院や診療所への受診をぜひお勧めします。

石綿と健康被害に関する詳細は独立行政法人環境再生保全機構のホームページを参照してください。

